

静私公たより



恵みの雨だ〜♪

- 理事長挨拶、定時総会
- 新執行体制
- 特集「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達(その5)」 遠藤 利彦
- 特集「子どものできた!を支える「見る力」(その3)」 桐生 大輔
- コミュニティ(保育の窓)
- もの思い(みなと幼稚園／掛川こども園)
- 協会創立50周年記念講演の開催、私立幼稚園・こども園 就職フェアの開催
- ナイスショット&編集後記



NO.195
2022⑦
Summer

和 敬 清 寂

(一社) 静岡県私立幼稚園振興協会
理事長

千葉 一道



「和」というのは、日本人が最も大切にしてきたことのひとつです。「和を以て貴しと為す」は聖徳太子の十七条の憲法にある言葉です。日本が国家として体裁をととのえ始めた七世紀初めに、すでに「和」が私たちの心の支えとして大切な背景とされていました。人と人との関係だけでなく、様々な行事やチーム、団体など「和」を以て活動することが大切であります。「一期一会」の縁で出会った者同士が、和やかに打ちとけて、互いを敬い尊重しあう、清らかな心で生きて、「寂」すなわち純粋な境地に至ることです。

本協会園 233 園のうち 160 園 (68%) ほどが新制度園に移行しました。私学助成園、認定こども園、施設型給付園など形態は違いますが、県私幼振興協会の加盟園として、「和」をもって振興していくことが子どもたちの未来のために課せられた私たちの使命であると考えます。

移り変わる社会状況を見据えて、現状に即した「当協会の進むべきあり方を検討するプロジェクト」を立ち上げました。全国的に少子化が進み、幼児教育を担う教員不足が

深刻な社会問題となっています。私たちの目指すところは「私立幼稚園教育の充実と振興」並びに「幼稚園経営の安定を図る」ことでもあります。子どもたちの健やかな成長と協会発展のため、今こそ会員がひとつになり「和」をもって精進することが必要であります。今後ともご理解並びにご協力を賜りますようお願いいたします。

終わりに、私、未熟者乍ら 4 期目の理事長の職をお受けすることになりました。政府は「こども家庭庁」が今国会において法案成立させ、令和 5 年度創設になる見込です。保育園、認定こども園は「こども家庭庁」に、学校教育と幼稚園、幼稚園型認定こども園は文部科学省が所管します。いずれにしても、当協会はひとつになり「お互いを認め合って」歩みたいと考えます。会員園の皆様は今以上のご協力を賜りますようお願いをいたします。

未だ新型コロナウイルスは収束していません。引き続き子どもの安全を第一に安心できる保育の提供の実施をお願いいたします。

第 70 回

(一社) 静岡県私立幼稚園振興協会定時総会

一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会の第 70 回定時総会が、6 月 3 日(金) ホテルグランヒルズ静岡において、166 人の社員が出席 (委任状を含む) し、静岡県スポーツ・文化観光部長の京極仁志様ほかをお迎えして盛大に開催されました。

千葉理事長は、挨拶で「コロナ禍の中で工夫しながら教育を展開される各園への敬意と感謝」を表したほか、「人間形成において最も大切な幼児期に各園が特色ある教育に専念し、子どもたちの最善の利益のために関わり幼児教育の質を高めていただきたい」、「振興協会が子どもの利益のために活動できるよう協会関係者の心が一つになることが大切」などと述べました。

続いて、教育振興に多大な功績を残されている方々への表彰が行われました。京極部長から私立学校教育振興功労知事表彰が、また千葉理事長から理事長・設置者、園長永年勤続表彰が授与されました。受賞者を代表して、学校法人無憂樹学園理事長・城北幼稚園園長、朝元百様から謝辞が述べられました。

来賓祝辞では、京極部長から「生涯にわたる人格形成の基礎を担い、その後の子どもたちの成長に大きく寄与する幼児教育の充実に向け、貴協会の皆様と手を携えて、私立幼稚園の教育施策を強力に推進していく」と、力強いお言葉をいただきました。

その後、千葉理事長が議長となって議事が進行され、第 1 号議案「令和 3 年度事業報告及び財務状況報告」、第 2 号議案「役員を選任」が原案通り可決されました。

また、報告事項として 1 社員の入会、2 社員の退会と、社員である法人が設置する 1 園の新規加入が報告されました。



■ 令和 3 年秋の叙勲

瑞宝双光章

元リーチェル幼稚園園長 足立 一教 氏

● 令和 4 年度私立学校教育振興功労知事表彰

学校法人無憂樹学園理事長

城北幼稚園園長 朝元 百 氏

学校法人藤枝スズキ学園理事長

元 平島幼稚園園長 鈴木 正篤 氏

● 令和 4 年度永年勤続表彰 (理事長・設置者、園長) (勤続 30 年以上)

学校法人葉梨学園

葉梨こども園園長

篠宮 けい子 氏

学校法人江雲学園理事長

ひくま幼稚園園長

水野 明 氏

(勤続 20 年以上)

学校法人吉田学園理事長

万野幼稚園園長

吉田 智昭 氏

新執行体制

令和4年度 三役・常置委員長・地区長の ご紹介

●三役

理事長	千葉 一道	八坂
副理事長	宮下友美恵	静岡豊田
〃	小林 直樹	富士中央
〃	朝元 百	城北
〃	野秋 和弘	エンゼル

●常置委員長

企画委員長	江崎 雅治	静岡翔洋
研修委員長	相田 早苗	焼津
広報委員長	足立 武裕	リーチェル
経営委員長	長谷川弘道	羽鳥るり
地域向上委員長	鈴木 正篤	平島

●地区長

駿豆	小林 由美	千福が丘ひかり
沼津	鶴谷 圭一	原町
富士	高橋 直美	いまいづみ

富士宮	吉田 智昭	万野
清水	高塚 匡宏	清水白百合
静岡	宮下友美恵	静岡豊田
焼津	今村 均	焼津中央
藤枝	稲葉 俊英	こばと・駿河台
島田・榛南	青山 至公	すすき
遠州	中村 千里	掛川
浜松	荒巻太枝子	早出



— 委員長抱負を語る —

企画委員会

委員長 江崎 雅治

今年度より企画委員長を勤めさせていただきます東海大学付属静岡翔洋幼稚園 江崎雅治です。企画委員会としては、昨年度から始まりました就職フェア開催を引き継ぎ、さらに効果的な実施ができるよう企画し実行したいと思っています。また県内私立幼稚園に必要なことや有益なことなどを考え、企画・実行していきたいと考えております。静岡県私立幼稚園振興協会企画委員会として、少しでも会員園の皆様のお力になれるよう努力をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

研修委員会

委員長 相田 早苗

日頃より研修委員会の事業につきましてご協力をいただきありがとうございます。

幼児教育の質の向上が求められている現在、教育内容の充実や質の評価の促進、家庭や地域における幼児教育の支援、推進のための体制の構築、幼児教育の実践の質の向上など、研究・研修を深めていくべき視点は様々です。令和4・5年度全日の教育研究課題において、重点課題としていくつかの視点が示されていますが、それらの視点を基に幼児教育の充実に向けて、各研修会をリモート研修も交え企画・実施していきたいと思っております。また、新規の研修として『ミドルリーダー研修』を開催する予定です。新たな2つのプロジェクトもスタートし、『保育の質の向上を目指した公開保育研修会』も4カ園で実施する予定です。保育者としての質の向上に寄与できるよう、研修内容の精査、計画、実施に取り組んでいきたいと思っております。

広報委員会

委員長 足立 武裕

前期に引き続き今期も広報委員会、HP 小委員会を担当させていただきますこととなりました。

広報誌の「静私幼だより」の編集、教員養成校との意見交換会、協会のパンフレットの作成など、事業を通して、私立幼稚園・認定こども園の取組みや乳幼児教育の意義、協会の活動目的・存在意義などを多くの方々にPRするとともに、保護者や子育て世帯の支援、地域の人々に子育てへの関心を高められるような広報活動を目指していきたいと考えています。

千葉理事長をはじめ理事の皆様、委員会の委員の皆様のお力をいただきながら務めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

経営委員会

委員長 長谷川 弘道

今年度より経営委員長の大役を仰せつかりました。ここ数年間、経営委員として関わらせていただく間に、私達、幼児教育業界、子ども子育て支援新制度に始まり、大きく変化してきました。そんな中、子ども達の健やかな成長を見守っていくには、やはり、私達が、園経営を安定させていくことが第一だと考えています。この大役を拝命したのも、何かのご縁と思いながら、経営委員の皆様と、皆様の一助が出来るように精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

合掌

地域向上委員会

委員長 鈴木 正篤

子ども子育て支援新制度や幼児教育・保育の無償化は、私たち幼稚園・認定こども園に大きな変化をもたらしました。その1つが、それまで県との関係が主なものでしたが、各市町との関係に多く要するようになったことです。このことは県私幼の役割や在り方の見直しを考えることにもつながってきました。地区を代表する地区長先生方と共に、建設的で明るく希望の持てる提案をしていくことも本委員会の役割かもしれません。子育てフェアや子育て支援カウンセラーなど、各地区でこれまで多くの実績を残している事業の更なる充実も願っています。

乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達

その5

ーアタッチメントの個人差とそれを分けるものー



東京大学大学院教育学研究科教授
同附属発達保育実践政策学センター長

遠藤 利彦

1962年山形県生まれ 東京大学教育学部卒業
東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学 博士(心理学)
東京大学教育学部助手、聖心女子大学文学部専任講師、
九州大学大学院人間環境学研究院助教授、京都大学大学院教育学研究科准教授、
東京大学大学院教育学研究科准教授を経て、現職
専門領域は発達心理学・感情心理学・進化心理学など
日本赤ちゃん学会理事・日本子ども学会理事・日本学術会議第25期会員など



前回は、子どもにとって身近な大人が「安全な避難所」と「安心の基地」の二つの役割をバランスよく果たし、子どもが「安心感の輪」を安定して回れている時に、一人遊びにしても集団遊びにしても、自発的な遊びに夢中になることができ、その中で、非認知的な心の要素も含め、大切なことをたくさん学ぶことができるのだと述べました。

しかし、すべての子どもが家庭で「安心感の輪」を安定して回れている訳ではありません。中には、親が「安全な避難所」と「安心の基地」としてうまく機能しないために、「安心感の輪」をあまり円滑に回れていない子どもも存在するのだと言えます。今回は「安心感の輪」の回り方に現れるアタッチメントの個人差について考えてみたいと思います。

これまで、アタッチメントとは何で、いかなる点でそれが子どもの発達において重要なのかということについていろいろと考えてきました。ここで一つ確認しておくべきことは、どんな子どもでも、恐くて不安な時には皆一様に、誰かにくっつきたいと強く願うものだということです。しかし、当たり前のことですが、関係というものは二人の人がいてはじめて成り立つものです。そして、このことは、一方の人がどんなに強くくっつきたいと思っても、相手側が応じてくれなければ、そこに、関係は成り立たないということを意味します。大人であれば、そうした場合、ある人へのくっつきを諦めて、くっついてもいいよと言っ

てくれる別の相手を探すこともできるでしょう。しかし、乳幼児には基本的に、それができないのです。親を選べないのです。そのため、子どもたちは、どのような親であれ、その親との間で、何とか最低限でも安心感が維持できるよう、自分のくっつき方を調整する必要に迫られ、結果的にそこにアタッチメントの個人差が生じてくるのです。

一般的に、アタッチメントの個人差は、四つのタイプのいずれかとして表されます。基本的に「安心感の輪」がしっかりと成り立っており、その上をごく自然に確かに回り続けることのできる子どもを「安定型」と言います。怖い時には泣き声を上げながら「安全な避難所」である親にくっつく、そして一旦、くっつくことができれば、容易に感情を回復させ、今度は親を「安心の基地」として、そこから元気よく飛び出し、再び自発的な遊びや探索活動に夢中になれる子どもたちのことです。こうした子どもは通常、「安全な避難所」と「安心の基地」の二つの役割をバランスよく果たしている親、別の言い方をすれば、子どもの心の状態やシグナルに敏感で迅速な応答ができ、かつ子どもの自発的な活動を尊重する親の下で育っていることが多いと言われています。

しかし、一方で、「安心感の輪」をあまりうまく回れない子どもたちもいます。その内の一つのタイプは、恐くて不安なはずなのに、自分から泣き声を上げたり近づいていたりしない、つまりは輪の途中で止まってしまい親に

くっつかないままになる、一般的には「回避型」と呼ばれる子どもです。このタイプの子どもの親は、日常場面において、相対的に子どもに対して拒絶的にふるまうことが多いのだと言います。子どもの視点からすると、いくら泣きなどのアタッチメントのシグナルを送っても、それを適切に受け止めてもらえることが少なく、それどころか、そうしたシグナルを表出したり近接を求めて行ったりすればするほど、なおさら親はそれを嫌って遠くに離れて行ってしまったり、あるいは子どもを遠ざけたりしてしまう傾向があるのだそうです。子どもにしてみれば、ただでさえ、恐くて不安なところで、親にさらに遠くに行ってしまうわれたり、親から遠ざけられたりしてしまえば、その恐怖や不安がさらにもっと強まってしまうことになります。そこで、子どもは、逆説的ですが、あえて泣いたりくっつくようにしたりしないことによって、つまり回避的な態度をとることで、それ以上、恐怖や不安が大きくならなくても済むよう、そして最低限、安心感を維持していただけるようにするのだそうです。

「安心感の輪」がうまく回らない別のタイプは、恐くて不安になって現にくっつくことができても、ぐずり続けて崩れた感情が元通りに回復せず、時には親に対して怒りの感情をぶつけてしまうような、一般的には「アンビヴァレント型」と呼ばれるタイプです。このタイプの子どもの親は、一般的に日常場面で、子どもに対して一貫しない気まぐれな接し方をしがちだと言います。子ども視点で言えば、恐くて泣いて近づいて行ったりした時に、親に抱っこされてちゃんと慰めてもらえる時もあれば、そうしてもらえないこともある。それどころか、一番くっつきたい時に、親にふらっとどこかに行かれてしまい、一人置き去りにされてしまうようなことが、比較的よくあるのだそうです。これは、子どもからすれば、どんな行動を起こしていけば、どのような形でアタッチメントの欲求を受け入れてもらえるのか、その見通しや予測がつきにくいということを意味します。結果的に、子どもは養育者の所在やその動きにいつも過剰なまでに用心深くなることになります。子どもは、激しく泣いたり、執拗にくっつくようにしたり、できる限り自分の方から最大限にアタッチメントのシグナルを送り続けることで、親の関心を自分に引きつけておこうとするようになるのです。現に、これを反映してか、このタイプの子どもは、日常場面において、養育者に対するしがみつきや後追いの傾向が強いということが知られています。

この他に「無秩序・無方向型」と呼ばれるタイプも存在

します。このタイプの子どもの特徴は、全般的に行動に一貫性がなく、何をしたいのか、どこに行きたいのか、つまりは養育者にくっつきたいのか、養育者から離れたいのか、よくわからないどっちつかずのふるまいを多く示すというものです。例えば、親の方に近づいては行くのだけれど、顔はどっか違う方を向いていたり、近づこうとしながら、途中で止まってしまい、顔を床に突っ伏したまま、そのまま顔を上げないでいたりします。また、時々、親を前にして、表情や行動が不自然に固まってしまったり、すくんでしまったり、ぼーっとうつろになってしまったりすることがあるようです。こうしたタイプは、虐待のような不適切な関わりを受ける中で多く生じるということが明らかになっています。虐待は、子どもにとって解決不可能なパラドクスと言えるのかも知れません。通常、親は、子どもが何か怯えた際に逃げ込む「安全な避難所」であり、また感情が元通りに回復した時には今度はそこを拠点にして外界に出て行く「安心の基地」でもあります。しかし、虐待という事態は、その「安全な避難所」や「安心の基地」が、むしろ、子どもをひどく脅かすところになっていることを意味します。本来、恐くてどうしようもない時に逃げ込むべきところが、時に、子どもにとって最も怖いところになってしまうのです。つまり、これがパラドクスということになります。唯一ある逃げ場が一番怖いところになってしまった場合、子どもはどこに助けを求めていけるでしょうか。親と子どもしかいない閉じた育児空間では、当然のことながら、どこにも助けを求めようがないということになります。つまり、一番、安心感をあてにしていたところから脅かされてしまうと、子どもは、もはや何も為す術がない、つまりは解決不可能な事態に陥ってしまうのです。そして、くっつくことも離れることもできないどっちつかずの状態、あるいはただうつろにフリーズして時をやり過ごすしかない状態に至ってしまうようなのです。

以上のように、子どもは自身が置かれた養育環境のあり方、とりわけ怖くて不安な時に親にどう応じてもらえるかということによって、「安心感の輪」の回り方を変える、あるいは変えざるを得ないことになるのだと考えられます。しかし、それぞれの家庭でどんなアタッチメントを経験している子どもであっても、園は、家庭とは異なるもう一つの育ちの場です。そこで、保育者が「安全な避難所」と「安心の基地」としてしっかりと機能し、子どもが園で「安心感の輪」を安定して回ることができれば、子どもの心の発達の未来が明るく拓ける場所があるように思います。

子どものできた！を支える『見る力』

～ #3 お家でビジョントレーニング～



桐生 大輔

(臨床心理士・公認心理師 / 株式会社コンテ・代表取締役)

1972年静岡県牧之原市出身
愛知学院大学大学院修了

医療・福祉・教育領域での臨床心理業務経験を経て、
2018年に浜松市で「みんなの心理相談室 cont-e」、
2020年にビジョントレーニング教室「目とカラダの
発達教室 cont-e」を開設。その他、私立幼稚園、
こども園への臨床心理・発達コンサルテーション
事業・研修 / 講演会を提供している

「見る力」には、さまざまな視覚の機能がお互いに連動していることを話させていただきました。視覚機能に弱さが認められた際に、これらの機能の向上を目指す手法が、ビジョントレーニングです。今回は、ビジョントレーニングの要素を取り込んだ、親子でできる遊びを紹介させていただきます。大人は、「見る力」を鍛えよう！と、つい熱くなってしまうやすいですが、無理をさせず、親子で楽しく遊ぶことがコツです。

1. 「両眼視・眼球運動を高める遊び」

見たいものを両眼で視覚に捉える。すばやくピントを合わせる遊び。黒板を写すことや本を読み飛ばしたりせず、スムーズに読めるようになるなどの機能が向上します。

●ビー玉をキャッチ！

- ①大人がビー玉をテーブルの左端から右端に、右端から左端に向かって転がします。子ども



は素手やカップでキャッチする。

- ②ビー玉を上から下に転がして、いろんな容器やスプーンなどキャッチする。
③スピードを調整したり、2～3個同時に転がしたり難易度を調整します。

特定の物に注意を向け続ける、本を読んだり、スポーツを楽しむ力につながります。

●プールスティックを避けよう！



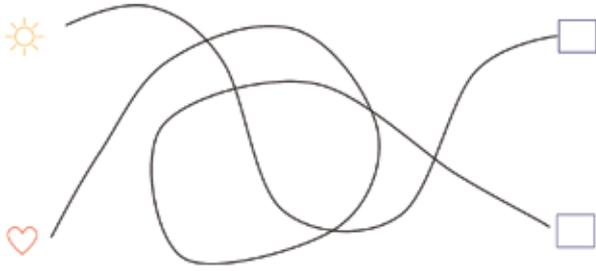
- ①床に移動できる範囲を決めます。大人はプールスティックを左右・上下に振ります。子どもは当たらないように避けます。決められた範囲からはみ出ないように声掛けします。

②スティックを2本にしたり、床にボールを置いて、「ボール！」の声掛けで触るなど、難易度を上げます。
物の動きをじっと捉え、動きやパターンを予測する力、それらに身体の動きを連動させる力を高めます。

2. 「形態認知、視空間認知を高める遊び」

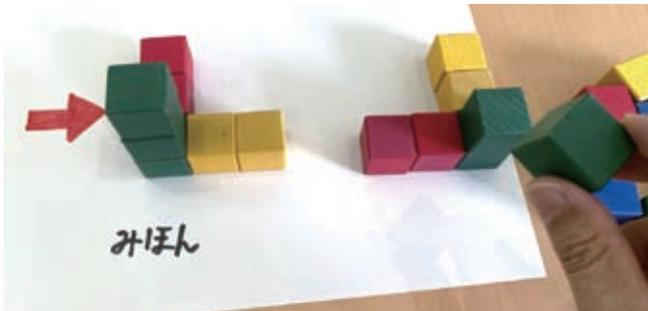
形の構成や位置関係を正しく認識する力を高める遊び。文字や図形を書いたり、物の操作や組み立てる力の向上につながります。

●線はどこにつながる？



- ①紙に図のように線が交差するように線を引きます。横方向や縦方向で線がどこにつながるか探します。
- ②線を指で添ってできるようになったら、眼だけでゴールにたどりつけるように挑戦。
線が交差しても方向は変わらないことを習得しましょう。文字を覚える基礎力を育てます。

●積み木で作ってみよう



- ①大人が作った形を見本にして作ります。平面に慣れてきたら立体にしていきます。
- ②「左側から見たらどう見えるか作ってみて？」とすることで、他者からの視点の認知も養えます。
積み木をできるだけ高く積みだけでも重心の概念や、指先を器用に動かす力の習得になります。

3. 「目と身体の動きの協調を高める遊び」

目からの情報に合わせて、目的や指示に応じて身体を動かす遊び。

●たたく、よける、とる！

- ①子どもに向かってボールをやさしく投げます。「たたく」と言ったらボールをたたき、「よける」と言ったら避けます。上手にできるようになったら、「取る」にも挑戦します。指示を正確に聞き取って反応します。
- ②慣れてきたら、バランスボードに乗るなどして、バラ



ンス感覚も養っていきましょう。しっかり両眼で見て距離感がつかめると落ち着いて指示に対応できるようになっていきます。

●飛行機を飛ばそう！

- ①目標に目掛けて飛行機を投げます。狙いを定め、投げる方向や傾きによる操舵感覚を刺激します。
- ②うまくいかない原因や、それを次にどう生かすのか質問をして、修正や調整力を育てます。



4. さいごに

世界の事象や出来事を上手に目で捉えて脳に伝えて、それらの情報を分析、処理して、正確に身体の動きに連動させていく。この「見る力」は、今後の教科学習や日常生活のスキル習得などに必須となる基礎能力です。学業がスタートする前の子どもたちには、いろいろな活動を通じて感覚情報に触れ、見る力を高め、身体を動かす遊びを大人が提供したいものです。

どんな遊びや活動にも必ず視覚機能が活躍しています。周囲の大人が、子どものあらわれに心配を感じた時、「見る力」に弱さがあったんだ！という認識は、子どもの支援には有効となることも多いです。物を渡すときに、いろんな方向から渡してあげたら、それは立派な眼球運動のトレーニングになります。私たちの意識次第で子どもたちの視覚機能の発達を促す働きかけるチャンスは広がります。身体を思いきり動かし、自由に遊びまわって外界の情報を収集し、身体を動かすこと。視覚機能の発達にはこれが一番です。発達支援のテクニックや手法を学ぶことも大切ですが、目の前にある当たり前を、もう一度見直し、その大切さを子どもたちとじっくり取り組み、子どもたちの成長・発達をみんなで喜び合いたいものです。

1年目を振り返って

やよい幼稚園 八木 すず子

毎朝ニコニコと笑顔で駆け寄ってくる子どもたちに迎えられるながら私の1日が始まります。小学生の時から憧れだった保育教諭。その夢が叶い、この子たちの担任の先生になるのだと嬉しくなったあの気持ちは今でも忘れません。1年目の担任は、1歳児クラスとなりました。4月、0歳児クラスからの持ちあがりの子どもたちが半分、新入園の子どもたちが半分というクラスでスタートしました。はじめのころの毎日はとても目まぐるしく、必死で保育にあたりました。そんな中、4月は泣いて登園を渋っていた子が笑顔で登園してくれるようになったり、子どもたちが「すず先生！」と名前を覚えてくれるようになったりする姿に嬉しくなり、何度もやりがいを感じることができました。だんだん子どもたちとの間に信頼関係が生まれ、この子はこういう声かけをするといいな、この子はこの手遊びが好きだな、など一人一人への理解も深まっていきました。



子どもたちの成長は著しく、一人一人にあった支援の仕方をペアの先生と何度も話し合いました。物の貸し借りでトラブルがあった時は「かしてって言うんだよ」と教えたり、トイレの時間に「ここを持ってズボンを履こうね」と言いながら手を取って一緒に練習したりしました。保護者の方にも自宅ではどう過ごしているか聞きながらその子の支援を考えました。そうするうちに子どもたちはたくさんの言葉を覚えていき、友達同士で会話ができるようになっていたり、ズボンや紙パンツを自分で履けるようになったりと色々な姿を見せてくれるようになりました。

先生方や保護者の方と連携してその子の成長を支える、すごく素敵な仕事だなと思います。これからも子どもに寄り添う保育者を目指し、2年目もたくさん学びたいです。そして子どもたちと笑顔溢れる日々を送っていけたらと思います。

1年を振り返って

川崎幼稚園 太田 実希

幼少期からの夢だった幼稚園教諭になり、あっという間に1年が経ちました。1年目は4歳児担任を持たせていただき、たくさんの経験をし、学ぶことができました。毎日が初めてのことで、不安や戸惑い、分からないことなどがたくさんありましたが、先生方に相談に乗っていただいたり、アドバイスをいただきながら日々の保育をしてきました。4月当初は泣いて登園してくる子も多く、どうしたら子ども達が幼稚園を楽しみにしてきてくれるのか悩んだ日もありました。子ども達に対しての声掛けや環境構成を工夫し、試行錯誤しながら取り組むことを心掛けました。



人それぞれ個性があり、自分の思い通りにならないとパニック状態になってしまう子や、身支度などを終えるのに時間がかかってしまう子など色々な子ども達と生活をする中で、悩みの壁にぶつかることが何度かありました。先輩方の姿を見て、援助方法や声掛けに対して、「こうする方法

もあるのか！」と学び、子どもの気持ちを受け止めることや見守ることが大切だということをこの1年で学ぶことができました。

今年度は2年目という自覚を持ち、1年目で学んだことを生かして様々なことに挑戦し、自分自身の保育に余裕をもって取り組みたいと思いました。2年目ですが、まだまだ分からないことがたくさんあるので、その都度、自分の保育方法を見直し、振り返ったり、保育者同士で話し合ったりして、保育を向上させていきたいです。保育に正解はないと学んできたので、子ども達とたくさん遊び、笑い合ったり、たくさんさんの思い出を作ったり、たまにはぶつかり合ってお互いに成長し合えるような保育にしていきたいです。子ども達に大好きになってもらえるような保育者になれるようにこれからも努力していきたいです。

幼稚園に就職をして

星園幼稚園 室伏 紗季

幼稚園に就職をして、3年目を迎えました。

1、2年目は、年少児クラスを受け持ちました。1年目の時は、保育の進め方、子どもへの声掛けの仕方など、わからないことだらけでした。頭の中では保育の流れを把握しているはずなのに、実際に行うと思い通りにいかないことが多く、悩むことが多々ありました。また、保護者対応がとても難しいと思いました。どこまで保護者に伝えてよいのか、どんな風に伝えればよいのかなどは学生時代には学ぶことができなかったため、その都度、先輩の保育者に相談をして、たくさん助けていただきました。



2年目では、1年目の経験を活かし、少しだけ理想とする保育を行えるようになりました。子どもたちが動きやすいような言葉掛けや配慮を意識できるようになったり、自分自身にも心の余裕ができ、子ども一人ひとりとの接し方を考えられるようになりました。

そして、3年目の現在は年長児クラスを受け持っています。

幼稚園の先生になって初めて受け持った子どもたちを再度受け持つことになった喜びを感じています。また、子どもたちの成長にも驚きました。可愛らしさの中にたくましさが見られるようになり、嬉しく思いました。来年は小学生となります。最後の幼稚園生活を思う存分楽しみ充実した1年となるよう、様々な活動を取り入れてたくさんの思い出を作りたいです。初めての年長担任となり、不安なこともあります。子どもたちと一緒に、すてきな1年を過ごせるよう頑張りたいです！

私は、幼稚園の先生になって本当に良かったと心から思っています。毎日子どもたちと話ができること、一緒に遊んでたくさんの笑顔を見られることに幸せを感じています。元々子どもが好きでしたが、今は更に大好きになりました!! 可愛い子どもたちに出会えたことに感謝して1日1日を大切に過ごしていきたいです。

コミュニケーションの大切さ

富士宮北幼稚園 長橋 萌

私は子どもが大好きで、もっと間近で様々な成長過程をサポートし無邪気な笑顔を見守りたいと思い、幼稚園教諭を目指しました。その夢が叶い幼稚園に就職し、働いている中で様々な子どもとの出会いがありました。

当たり前ですが、子どもの性格は一人ひとり違います。話を聞き行動できる子・真面目な子・お調子者の子・集団行動が苦手な子・感情のコントロールが苦手な子…挙げはじめたらきりが無い程様々な子どもがクラスにはいました。その際、「Aにはこの対応でよかったがBは同じ対応では上手くいかない」といったように、子どもの性格にあった対応の仕方があるため、様々な声掛けの仕方や対応の仕方を試行錯誤しながら保育をしていかなければなりません。また、1度目は上手くいったからといって毎回その対応でいいかというとはそうではなく、上手くいかないときもたくさんありました。



その様なときに「自分はこう接したら良かったのか」と悩むときもあれば、自分の感情を子どもにおつけてしまい反省することもありました。自分だけの力では限界があり、負のループになってしまい私の気持ちが態度に出た保育を

し、どの活動に対しても子どもたちと意思疎通が上手くいかず、お互いに探り探り接し、ごちない日々を過ごすときもありました。その環境を何とかしなければと思うほど気持ちが空回りしてしまい、園長先生や先輩・同僚といった様々な先生方と子どもの様子を共有し、自分がどう対応してきたかを伝え、上手くいかずどうしたら良いかわからないことを伝えました。すると、先生方は、自分の体験談・似た事例の話等様々な角度や目線でいくつものアドバイスをくださいました。自分一人では解決できなかったことも先生方に力を借りることで視野がどんどん広がり、「こうしてみよう!」「次はこうしよう!」と様々な考えを持てるようになりました。

まだまだ自分の保育の進め方に納得できず、どうしたら良いのかと悩むこともたくさんありますが、一人で抱え込むのではなくコミュニケーションを大切にして、その都度先生方にも相談し、子どもたちとしっかり向き合い、私が幼稚園教諭を目指した理由となる、様々な成長過程をサポートし無邪気な子どもの笑顔を見守っていける保育をしていきたいです。

子どもと共に成長した 10 年

みなと幼稚園 PTA 会長

守屋 昌尚

我が家には、中学校 1 年生の長男、小学校 5 年生の次男、2 年生の三男、年長組の四男がいます。4 人共にみなと幼稚園にお世話になり、今年で 10 年目になります。

みなと幼稚園は、「強いて教えるのではなく、育み育てる」、「一人ひとりを大切に、個々の成長、発達を見る」、「子どもらしい心情を育成する」、「基本的生活習慣を育成する」、「独り立ちできる子を育成する」を理念に教育する幼稚園で、日々成長していく息子の姿を見ると、教育にご尽力いただいた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

息子達 4 人それぞれ性格が違えば得意なことも苦手なことも違い、積極的に友達との輪に入っていき子もいれば恥ずかしがり屋で泣き虫な子もいて、子育ての難しさを感じさせられる日々ですが、先生方はそんな子ども達の性格を早々に理解してくれて上手に個性を伸ばしてくださいました。

初めての園生活で緊張していた長男には、一緒にたくさん体を動かしてくれ自由に伸び伸びさせていただき今では誰とでも上手にコミュニケーションを取れる

子になりました。走ることが得意な次男には、リレーのアンカーを任せていただきそれが自信になり、お話をすることが苦手でしたが発表をたくさんできるようになりました。活発で元気すぎる三男がお友達にひどい言葉を言ってしまったときは、「心にできてしまった傷は体にできてしまった傷と違って絆創膏を貼って治すことができないんだよ」と心で教えてくださいました。

そして四男は、入園時から新型コロナウイルスの影響で恒例行事ができなかったり様々な制限やマスク生活など我慢する事ばかりで、上のお兄ちゃん達と全く違った幼稚園生活になってしまいましたが、そんな生活の中でも工夫して園行事を行っていただき、どんな時でも笑顔で子ども達を迎え入れてくれるので安心して預けられることができました。家に帰ってくるとお友達のお話をたくさんしてくれて、楽しい毎日を送ってるんだと嬉しく思います。

私自身も親として 10 年間、みなと幼稚園の教育で子どもと共に成長することができたと実感しています。ありがとうございました。



園生活を振り返って

掛川こども園 PTA 会長

細沢 つかさ

長男とともに、私も「母親として」掛川こども園に入園したのは 7 年前。長男、長女が卒園し、現在は次女が年長さんでお世話になっており、私の園生活も今年でいよいよ最後ののだとしみじみ感じている今日この頃です。

これまで園の先生方には、日々の送り迎えの時間やお便りの中で、また座談会などでたくさんの気づきをいただきました。中でも特に印象に残っていることを一つ、ここで紹介させていただきたいと思います。

それは、長男が在園中に行われた家庭教育学級の座談会でのこと。当時の副園長先生が「お母さんたちは、子どもさんのできないことを一生懸命できるようにさせようと考えていると思うけれども、先生たちは「みんなできる子」と思って、子どもたちに接しています」と、お話ししてくださいました。

「今はそこまで成長が伴っていないからできない、あるいはその子自身が興味なくてやらないということ」「いつかは、できるようになる」…当時、長男に対して、できないことばかりに目を向け、「これができないから、

できるようにさせなきゃ」と、一生懸命になっていた私でしたが、このお話を伺い「子どもたちの“今”をしっかりと見つめよう」という気持ちになりました。また同時に、子どもたちの力を信じ、子どもたちの“今”を大切にしてくれている園の先生方に感謝の気持ちでいっぱいになりました。私もまだ母として未熟な部分が多く余裕もない中、我が子に対して「待つ」ということができずにいた時に、このようなお話が聞けて本当に救われました。

子どもとともに私も母として成長させていただいた園生活。初めのうちは砂まみれの靴下や半ズボンに四苦八苦していた毎日の洗濯も、いつか、付けてきた汚れを見ては、その日我が子がどんな風に園で過ごしてきたのかなあ…と想像しながらやるようになり、楽しみの一つとなりました。そんな園生活も残すところ 1 年を切り、感慨深さとさみしさを感じています。掛川こども園で過ごす一日一日を、娘とともに大切にしていきたいと思っています。



協会創立50周年記念講演の開催

去る2月22日(火)午後2時10分から、ホテルグランヒルズ静岡のセンチュールームにおいて、協会創立50周年記念講演が開催されました。

協会の50周年は昨年度(令和2年度)に迎えましたが、新型コロナウイルス感染拡大により式典のみ執り行い、講演会は延期されていました。今回もまん延防止等重点措置が延長された状況の中、感染防止対策を講じた会場には約120人が参加し、各園からは保護者の方を含め約400人がライブ配信を視聴されました。

講師には、青山学院大学の地球社会共生学部教授であり陸上競技部長距離ブロック監督の原晋(はらすすむ)氏をお招きし、「逆転のメソッド～子どもの成長のために今できること～」と題してご講演を頂きました。青山学院大学の原監督と言えば、今年の箱根駅伝で2年ぶり6度目の総合優勝を大会新記録で飾られ、テレビにも数多く出演される著名人です。

講演内容の誌面掲載は、原晋講演事務局から制限されていますので詳細は記せませんが、30年以上箱根駅伝に出場できなかった青山学院大学駅伝チームをこの10年間で4連覇を含む6度優勝という輝かしい成績を収めるチームに成長させた組織づくりの基本、考え方についてでした。単なる強い選手を育てるということではなく、箱根駅伝を通じて社会に役立つ人材を育成するなどの理念をはじめ、行動指針、ビジョン、具体的施策、評価基準、そして何よりも重要なのが覚悟という組織づくりに必要な要素についての

お話を楽しみ秘話を交えながら巧妙に語っていただきました。会場からの質問に応える形で披露された箱根駅伝を関東の大学だけでなく全国の大学から参加できるようにすることが地方を活性化し、日本全体が元気になるというお話は大変興味深いものでした。今回のご講演は加盟園の皆様への園づくりにも大変役立つ内容だと感じました。

(追伸)

50周年記念講演の前には、県の私学振興課とこども未来課による新年度予算案の概要説明が行われました。特にこども未来課長からは、令和5年度から段階的に適用される施設型給付費の「処遇改善等加算Ⅱの認定に係る対象研修の要件」について、現時点における考え方として「少なくとも平成29年度以降に実施した研修は対象として認める」との説明がありました。

また、保育士修学資金貸付(月5万円、最大2年間)について、全額返還免除の対象となる就業施設には「常時(週5日以上、夏休みや冬休みも保育所と同等に)預かり保育を実施する幼稚園」も含まれるとの説明がありました。



私立幼稚園・こども園就職フェアの開催

去る3月25日(金)と28日(月)、それぞれグランシップ、アクトシティ浜松展示イベントホールにおいて、私立幼稚園・こども園就職フェアが開催されました。両会場では、それぞれ50～60の園が出展し、約100～150人の学生等に対し、保育の特徴をはじめ、給与、休暇など関心の高い情報を丁寧に提供しました。

静岡会場でのアンケートでは、多くの学生が「知りたかったことは聞けた」とし、園の方針や特徴・雰囲気などのほか、給与や福利厚生など具体的な待遇面についても聞くことができたなどと回答していました。一方で、園によっては給与や出勤体制の話が十分聞けなかった、ブースに入るタイミングが難しかったなどの意見もありました。また、出展した園からは、求職者である学生と話すことができとても貴重な時間になったなど、評価する意見が多く寄せられた一方で、参加園の数が少なく寂しい感じがした、エリアの配置に工夫が必要など、多くのご意見をいただきました。

浜松会場での学生向けのアンケートでは、「園選びのポイント」について3つまで回答していただいたところ、「職場の雰囲気」、「園の特色、保育方針」、「勤務時間、休日数」が多くを占めました。フェアで知りたいことについては、「園の方針、理念」、「勤務時間、休日数」、「給与や手当の内容」の順となりました。

これらの実績やご意見を今後活かしていければと思います。



ナイス
ショット



じゃけん列車でGo!

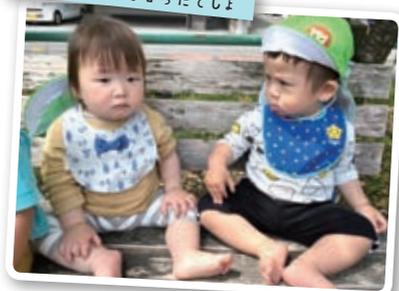


ママにいたいよ〜

お料理できたよ



だからだめって言ったでしょ



園庭のさくらんぼ



園庭のヒトアブにイモリ発見!



田植え体験、たのしかったよ!



雨がりの水たまり



痛くないかな…



みなでおもいをこめて



編集後記

政府における感染症対策の変更により、「就学前の子どもにはマスクは原則として不要」とされました。まだまだ樂觀はできませんが、やはり、マスクをはずしてのびやかに活動する、生き生きとした子どもたちの様々な表情を見ることができるとても大きな喜びです。猛暑が続くであろうこの夏も、

熱中症などにも注意しながら子どもたちの体調管理に十分気を付けていきたいものです。お忙しい中、第195号静私幼だよりにご協力くださった皆様方、誠にありがとうございました。

沼津聖マリア幼稚園 鈴木 則子



このQRコードを携帯端末の「QRコードリーダー」で読み取ると、静私幼だよりの携帯サイトへそのままアクセスできます。